



Vol.10 ミンククジラの奏でる歌

Text & Photo by: Ryo Minemizu

海に入ると彼らはすぐにやってきた。同じひとときを過ごし、同じ地球に生きる生き物として、彼らの生命を強く感じる特別な体験。その雄大な自然の姿を海の中から見る、ミンククジラスペシャルクルーズ

GBR

グレートバリアリーフ

ミンククジラの奏でる歌

緊急告知：2011年6/18～6/23 スペシャルクルーズ開催決定！



それぞれの思いを乗せて スペシャルクルーズが今始まる



2 010年7月、アメリカ人マリンバイオロジストのジョンラムニー氏が企画するミンククジラスペシャルクルーズに参加した。私が彼のクルーズに参加するのはこれで2回目となる。今年には昨年よりもより長い時間をミンククジラと泳ぐことが叶った。

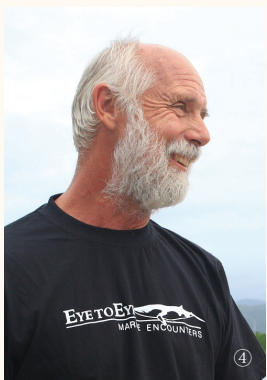
このスペシャルクルーズの魅力は、何と言ってもミンククジラとの遭遇のためだけにすべての時間を裂いている点だ。ミンクが出ればゲストが遭遇に立ち会えるように時間を費やしてくれる。往復の航行スケジュール以外はすべてミンク中心のスケジュールとなるのだ。今回のクルーズではニムロッド号がチャーターされ、ケアンズから1時間ほど車で北上したポートダグラスという港から出航する。夕暮れのポートダグラスに到着し、待ち受けていたジョンと1年ぶりの再会。以前と変わらず、穏やかな語り口、やさしい面持ちの紳士が出迎えてくれた。

二 ムロッド号に機材を積み込む。夜9時の出航までには

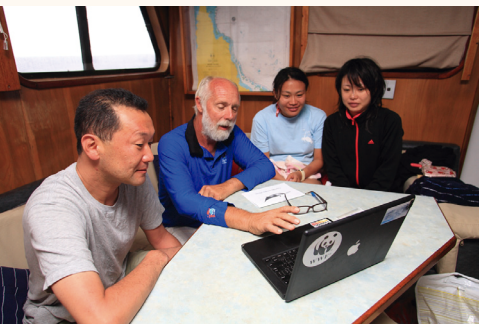
時間があるので、クルーズ中に飲むビールなどを買出しに出かけながら、今回参加する日本人ゲストと町で夕食を済ませることとなった。

ポートダグラスはケアンズに次ぐ第2のリゾート地。おしゃれな町並みには世界各国のレストランやバーが並び、夕刻にもなるとたくさんの観光客で賑わいをみせる。そんな異国の雰囲気を楽しみながらも、夕食時の話題はこれから始まるスペシャルクルーズへの期待だ。今年は何れくらいミンククジラと一緒に時間を過ごすことができるだろうか？ミンククジラの撮影が目的の桜井さん、クジラ好きの麻衣さん、そしてワールドツアープランナーズからツアールリサーチとして参加した水垣さん、三者三様の思いが交差する。

私 たちが夕食をとっている間にも、世界各国からこのクルーズに参加するために集まったゲストが続々と揃い、総勢18名のゲストとジョンを含めた6名のクルーにて、予定通りニムロッド号はポートダグラスを後にした。



- ① 今回のクルーズのために特別にチャーターされた、双胴船のニムロッド号
- ② ミンクに遭遇した際の注意事項など、事前にレクチャーを受ける
- ③ 静かな入り江が広がる夕暮れのポートダグラス港
- ④ もと漁師という肩書きを持つ、マリンバイオロジストのジョンラムニー氏



日本人ゲストに、画像を見せながら説明をしてくれるジョン



ザトウクジラ



ドワーフミンククジラ

ザトウクジラとドワーフミンククジラの大きさの比較



グ
半球に生息するドワーフミンククジラは主に南
グレートバリアリーフで見ら
れるミンククジラは主に南
半球に生息するドワーフミンクク
クルーズ日程のブリーフィングが
始まり、ゲストの自己紹介を兼ね
ながら、それぞれが今回の意気込
みを語る頃、月夜に照らされたニ
ムロッド号の舳先は静かに波を掻
き分けながら、北部グレートバリ
アリーのひとつ、リボンリーフ
No.10を指して進んでいる。

ジラ（全長約8m、体重6トン）
という種類だ。よく知られるザト
ウクジラ（全長約16m・体重
30トン）と同じくヒゲクジラの
仲間で、イワシなどの小魚やオキ
アミなどを海水ごと飲み込み、そ
れをヒゲの内側で濾しとって食べ
る食性が知られている。ケアンズ
周辺で見られるのは、例年6月中
旬から8月頃で、北部GBRのリ
ボンリーフNo.10の周辺での目撃
例が特に多い。なぜこの時期にこ

ニムロッド号のすぐ側でブローするミンククジラ。このような光景は、スイミング中ごく普通に見られる

好奇心旺盛な ミンククジラ



間近に迫る ミンキースイム



こちらの様子をうかがうように、目の前でしばらく止まる

ここに集まるのかなど、詳しい生態についてはまだ判っていない。

ミンククジラは他のどのクジラよりも人間に対してフレンドリーだ。海に入ると彼らは私たちに興味を持って近づいてくる。気性が穏やかで、好奇心旺盛な習性を利用して行われるミンキースイムは、ホエールウォッチングとは違い、実際の海の中の姿を水中から間近で見ることができるので。これはドローフミンククジラだからできる独特の観察スタイルで、ダイビングのライセンスがなくてもマスクとスノーケル、フィンを使ったスノーケリングができれば誰でも参加できる。

通常のGBRクルーズでもこの時期ならミンキースイムでミンククジラと遭遇することは可能だ。しかし、その時間はクルーズ全工程のうち、1〜2時間程度に限られてしまう。これは移動のスケジュール上そこにとどまれる時間に制限があるので致しかたないのだが、ただミンククジラを見るだけではなく、よりミンクとのコミュニケーションをとるには、時間を割いてミンククジラが人間に慣れる時間が必要だ。時間をかければかけるほどミンククジラは私たちに近づいてきてくれる。

スペシャルクルーズでは、ミンククジラとの遭遇のため



だけに時間を割いているので、通常のクルーズでは見られないような一歩踏み込んだシーンに出会える可能性が高い。一緒に泳げる時間も長く、より至近距離で見られる点も魅力だ。ポイントはミンククジラの出現状況に合わせてフレキシブルに変わるため、一般的なポイントでは見られないような、大きな群れと遭遇できるチャンス

もある。

⑤ ミンクスイムは船の後方にブイをつけたロープを流し、それに等間隔につかまりながらスノーケリングによって水中のミンククジラを観察する方法だ。クジラは私たちのわずか1〜2mくらいの距離まで近づいてきてくれる。数はその時にもよるが、

通常2〜10頭ほど。最初はすぐ真横を通りすぎていくパターンや下を通り抜けていくパターンが多く、慣れてくると私たちの真横や真下に来てしばらく留まったり、さらに回転しながらお腹をみせる「ベリープレゼンテーション」や、水面に顔を出して海面の状況を観察する「スパイホッピング」なども見られる。



クジラと夢の コミュニケーション



⑤ 等間隔でロープにつかまる観察者。すぐ側を通り抜けていくミンククジラ

⑥ まるで小型の潜水艦のよう、無駄の無いフォルム

⑦ 真下を通り過ぎるときには頭の上ある呼吸孔が見える





ボ ミーやピナクル形状のダイビングポイントでは、水中のミンクジラがよく観察されている。ここならダイビングをしながらクジラを観察することも可能だ。ただ、スノーケリング時に比べるとミンククジラが近づいてくるまでにはより一層の時間がかかるので、ダイビング中にミンククジラが出たら早めにダイビングを切り上げて、スノーケリングに替えるのがお勧めだ。もちろん、スノーケリングをしなくても、船の上から「ブロー」や「ヘッドライズ」、「スパイホッピング」などを船の付近で観察することも可能で、彼らの泳ぐ姿、群れの動きを手にとるように見ることができ

右から左から時には後ろから

ミンキーの歌が聞こえる

Eye to Eye
目が合う瞬間、クジラとのコ
ミュニケーションの始まり

数頭のミンククジラが私たち
の周りを行き交う。3時間もの
間私たちは彼らと泳ぎ続けた

緊急告知：
2011年6/18～6/23
スペシャルクルーズ開催決定！



<http://www.wtp.co.jp>



参加者は個人のクジラ研究者やクジラファン、写真派など様々。世界中から集まった、2010年のミンクスペシャルクルーズメンバー



一日、沖合いのミンクを探していた私達は、幸運にも

10頭ほどのグループに遭遇した。水中に入ると目の前にミンククジラが入れ替わり立ち代り姿を現す。しばらくすると、ベベベウン、ベベベウン、まるでスターウォーズのテーマのような低周波音が水中に響きはじめた。ドワーフミンククジラの鳴き声だ。これは群れと遭遇した時でないと体験出来ないラッキーな事だ。人間との交流を楽しんでいる様子が感じられる。参加者の誰もが目の前に広がる光景に虜になっている様子。私の心にも深く刻まれる印象的な出来事となった。それぞれが思い思いにクジラを感じながら、クジ

ラと同じ時間、同じ世界を共有する。日が沈むまでそんな時間が続いた。

現在、世界の海でホエールズ数の地域に限られているが、ド

ワーフミンククジラの穏やかな習性から、ここでは安心して水の中に入る事ができる。

2010年のスペシャルクルーズでは約20頭ものドワーフミンククジラとの遭遇が叶い、クルーズ参加者を魅了した。来年の同じ頃、またケアンズで再会することを誓い、私たちは各々の帰路についた。